

水素に着目したエネルギー安全保障

総合政策学部 3 年

佐藤旭・中野沙香・細谷百華

資源エネルギー庁によれば、2018 年度の化石燃料の海外依存度は「石油」が 99.7%のように、日本国内で消費されるエネルギーのほとんどが、外国から輸入した資源に依存して生産・確保されている。また、資源国による資源ナショナリズムの高揚、新興国によるエネルギー・鉱物資源等の獲得競争の激化が指摘されており、人口増加・経済成長により、世界全体で、よりエネルギーへの需要が増加している。今後は、より「資源の偏在性」、という脅威に対して策を講じることが重要になってくると考えられる。

以上より、本プロジェクトでは、エネルギー安全保障の重要性が高くなっていると認識し、その維持・向上をテーマとしてそれに有効な政策モデルの提言する論文の執筆を目的とする。

そして私たちは「水素」に着目し研究を行ってきた。しかし、水素分野は実証段階が多く先行研究やデータが不足しており、学生に公開されている水素施設が少ない等、データの収集が困難であった。そのため、私たちは、再生可能エネルギーも視野に入れ研究を進め、水素の蓄電性と余剰電力に着目した政策モデルの立案に成功した。

WEB 用要旨（サマリー）